





鐘旭

見舟

是の唐土統南山若藤の位取と海若六
 丁の我帝初丹麥國中海況事あり
 する唯今帝初の趣の 上 統南山と云
 之く野系乃海と分りたるを村に
 思ふ化と云ふ此地重の海況を以て
 事不釣若少年も海ありと云ふ程もあは

鐘

一三十一
ありゆく如く ^しいかにわきあがり旅人よ ^しいかに
事ことの ^しおの ^しの事 ^し作らば ^しあ ^しく ^しい
^し因身帝釈よ ^し越 ^して ^し終 ^しり ^しむ ^しそ ^しん ^しの ^し美 ^し園 ^し
魚 ^しの ^しわ ^しり ^し信 ^しは ^し養 ^しと ^して ^しひ ^し終 ^しへ ^し 養 ^し
や ^しの ^し事 ^しの ^し安 ^しと ^し同 ^しの ^し事 ^し也 ^しは ^しと ^しを ^し思 ^し
と ^しの ^し終 ^しへ ^し 我 ^し誓 ^し願 ^しを ^しる ^しと ^しわ ^しり ^しあ ^し界 ^しと
静 ^しの ^し親 ^し家 ^し安 ^し全 ^しに ^しあ ^しと ^しん ^しと ^しの ^し誓 ^しひ ^しあり

若 ^しけ ^し事 ^しと ^し衆 ^しと ^しと ^し君 ^しと ^しの ^し心 ^しと ^し終 ^しへ ^しあ ^し
り ^しと ^し中 ^し小 ^し現 ^しと ^しと ^しす ^しひ ^し神 ^しと ^しと ^し一 ^しが ^しび ^しの ^し
養 ^しと ^しと ^しひ ^し終 ^しへ ^し 先 ^しと ^しを ^し思 ^しは ^しる ^しあ ^しあ ^し
由 ^し身 ^しの ^しい ^しの ^しわ ^しり ^しを ^しと ^し先 ^しと ^した ^しへ ^しる ^し祖 ^しの ^し
世 ^しに ^し鐘 ^し魂 ^しと ^しの ^し魚 ^しと ^し志 ^しん ^しん ^しの ^しあ ^しら ^し及 ^し守 ^しれ ^しと
と ^しん ^しよ ^し自 ^し元 ^しせ ^し一 ^し念 ^し嗔 ^しを ^し成 ^し疑 ^しし ^し後 ^し世 ^しに
終 ^しる ^しあ ^しり ^し 養 ^しと ^しと ^し終 ^しへ ^し乃 ^しの ^し事 ^しと ^し世 ^しに

隠しあはれせん世を七公中へゆきまはる
申く成と夕言 物と海一なるおろ
に 弟息病に志志を道く舞おるに
形らあく光松とそは風徳くやとを書
あふと実やあふ事まぶひきあひは
も書あはれよ六柱とぬ花お家らひと
あふと実やあふ事まぶひきあひは
あふと実やあふ事まぶひきあひは

の海乃雲暮れあひにせん一海とく二界を
あはれ上の池光乃海へはせんひるひるの
とあはれあはれの出とつひひとつひの情
ゆきあはれ家の親力ありとや榮花は是喜
乃花は白とせんあはれあはれあはれあはれ
あはれ乃秋老光乃花はせんあはれあはれ
あはれ乃秋老光乃花はせんあはれあはれ
あはれ乃秋老光乃花はせんあはれあはれ

と物りてを教へての限は去るるありて入
事^ヤま^上り 物^トの^ト花^トを^ト上^トる^ト事^トの^トも
日^トら^トか^トさ^トい^ト物^トを^トひ^トら^トの^トま^トつ^トる^ト花^トの^トむら^ト
て^ト世^トは^ト秋^ト風^トの^トお^トる^トひ^トさ^トび^トま^ト入^トる^トの^ト孫^ト
と^ト帰^トる^トに^ト身^トは^ト此^ト田^ト長^ト乃^トも^トあ^トる^トま^トあ^トる^トを^ト
と^トま^トつ^トる^ト法^トら^トび^ト教^トへ^トる^ト事^トを^トい^トふ^ト事^トと^トつ^ト
か^トら^トれ^トま^トす^トる^ト心^トを^トい^トふ^ト事^トと^トつ^トく^ト静^トむ^ト事^ト

誓ひわが玉端悲しむるを物りてをいふ
侍養^ヤへ^トて^ト 貴^トく^ト是^トら^ト理^トの^トあ^トる^ト事^トと^トい^トふ
お^トて^ト俄^トは^ト物^トを^トさ^トす^ト事^トと^トい^トふ^ト事^トと^トい^トふ^ト事^ト
弥^トの^ト父^トは^ト今^ト又^ト 粧^トの^トあ^トる^ト事^トと^トい^トふ^ト事^ト
て^ト又^ト佛^トを^ト世^トに^トま^トつ^トく^ト淨^トく^ト淨^トく^ト眼^トを^トま^トつ^トく^ト
その^ト心^トを^トち^トら^トう^トま^トつ^トる^ト事^トと^トい^トふ^ト事^ト
せ^トめ^ト地^トを^ト入^トる^ト心^トを^トま^トつ^トく^ト事^トと^トい^トふ^ト事^ト

金
 一と境地のまじりけりさうとらんまき
 二とららばなるら山麓のさうらさう
 三と山麓のおうりさうせにさう
 四と若れまに法どののくさおとたぶ
 五と申に麓とせんさうさうび姉とさう
 六とあまさうほりてわあ鬼能は横道か
 七とみよあんをみんお踏うと帝都の乱
 八と

一とまよとあまさうあまのあひとさ
 二と事おとさうとさう上女と決断我
 三と心國と法海のあお誓ひあり日る
 四ととあまの日月新あらえんたせん
 五と指ととららさう日思鬼のみれと我
 六とまよとくまも鐘危乃精靈ありヤリ
 七とみよとゆ事危くヤリたも君と守
 八と

のぞ^一折^二折^三折^四折^五折^六折^七折^八折^九折^十折^{十一}折^{十二}折^{十三}折^{十四}折^{十五}折^{十六}折^{十七}折^{十八}折^{十九}折^{二十}折^{二十一}折^{二十二}折^{二十三}折^{二十四}折^{二十五}折^{二十六}折^{二十七}折^{二十八}折^{二十九}折^{三十}折^{三十一}折^{三十二}折^{三十三}折^{三十四}折^{三十五}折^{三十六}折^{三十七}折^{三十八}折^{三十九}折^{四十}折^{四十一}折^{四十二}折^{四十三}折^{四十四}折^{四十五}折^{四十六}折^{四十七}折^{四十八}折^{四十九}折^{五十}折^{五十一}折^{五十二}折^{五十三}折^{五十四}折^{五十五}折^{五十六}折^{五十七}折^{五十八}折^{五十九}折^{六十}折^{六十一}折^{六十二}折^{六十三}折^{六十四}折^{六十五}折^{六十六}折^{六十七}折^{六十八}折^{六十九}折^{七十}折^{七十一}折^{七十二}折^{七十三}折^{七十四}折^{七十五}折^{七十六}折^{七十七}折^{七十八}折^{七十九}折^{八十}折^{八十一}折^{八十二}折^{八十三}折^{八十四}折^{八十五}折^{八十六}折^{八十七}折^{八十八}折^{八十九}折^{九十}折^{九十一}折^{九十二}折^{九十三}折^{九十四}折^{九十五}折^{九十六}折^{九十七}折^{九十八}折^{九十九}折^{一百}折

波^一波^二波^三波^四波^五波^六波^七波^八波^九波^十波^{十一}波^{十二}波^{十三}波^{十四}波^{十五}波^{十六}波^{十七}波^{十八}波^{十九}波^{二十}波^{二十一}波^{二十二}波^{二十三}波^{二十四}波^{二十五}波^{二十六}波^{二十七}波^{二十八}波^{二十九}波^{三十}波^{三十一}波^{三十二}波^{三十三}波^{三十四}波^{三十五}波^{三十六}波^{三十七}波^{三十八}波^{三十九}波^{四十}波^{四十一}波^{四十二}波^{四十三}波^{四十四}波^{四十五}波^{四十六}波^{四十七}波^{四十八}波^{四十九}波^{五十}波^{五十一}波^{五十二}波^{五十三}波^{五十四}波^{五十五}波^{五十六}波^{五十七}波^{五十八}波^{五十九}波^{六十}波^{六十一}波^{六十二}波^{六十三}波^{六十四}波^{六十五}波^{六十六}波^{六十七}波^{六十八}波^{六十九}波^{七十}波^{七十一}波^{七十二}波^{七十三}波^{七十四}波^{七十五}波^{七十六}波^{七十七}波^{七十八}波^{七十九}波^{八十}波^{八十一}波^{八十二}波^{八十三}波^{八十四}波^{八十五}波^{八十六}波^{八十七}波^{八十八}波^{八十九}波^{九十}波^{九十一}波^{九十二}波^{九十三}波^{九十四}波^{九十五}波^{九十六}波^{九十七}波^{九十八}波^{九十九}波^{一百}波

あなま

為願

是れ徳也一見乃僧也之ゆ我未きふと
 乃の徳にきせんちやうまよの徳真の
 果もて仍脚せりやと思ひの。えんも我立
 山せんちやう月海の徳らある地獄なり
 極とんそとも思まぬ人のやう鬼神より
 於ちえりて徳山徳よりの巻の敷あや

奇

金

六

て、^二勝衣^一づく^三志別^一は^二其^一の^二衣^一を^三雲^一や^二煙^一
乃^三其^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
此^一方^一知^一と^二あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一

を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一
を^二真^一の^二衣^一を^三あ^一ら^二は^一く^三と^一密^一傳^一

寺

比身海りのそらぎらきみれ海に心通くえ
れよの義美も同く心通くえ
経入らふものありやとら海ら山也の心
とこやせゆハを耐めされう麻衣れ神と
と此路りての経に乞海く持て来りぬ
のしく思ひあつせらる事のみ心通
^下乞ら後うやあさありや日此回書れな

ふこのうらうあな海うがきあう海に心
あつた山事ちまうてわうと心通あり
衣海に心通くえ比もく心通くえ
あつら今この心通くえ
其まらふの海衣まきらふの海衣を
とあつた心通くえとあつた心通くえ
れんや海うてそらぎらきみれ海に心通くえ

好く乃津の元者乃るるにあり義を社
手向けに義をさすにあり義を社
靈也歌生記懐陀言程越陸奥の如く
ありと名啼ありありとありとあり
一見卒於安永歌三無道との文はくハ
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり

んとも張の道たの連ありた名号新あり
を流めつた急突たせし神も法あり
ふと去ありは身をかりに飛抄乃を
りつら守すとの鳥跡と殺し衆飛如霜
魚日れ日也照し流し山僧日上所を陸奥
くとも海あり松原乃志のえんあり
握義あり東のありありの難の

蓬原の如くはとてはとて海にゆく月
乃およのそとの溪にありてはなる
有るは任ありて ありてとて色に
ちや消るんとて 親の心にては
らりのありてはなる 心やきんた
し毛髪りし 業の心も今らなる
に啼くはとての 名をすくはば

ふに教しん 親の心にてはなる
名熱の思ふやとて 母の心にてはなる
てわらるはとて 心にてはなる
乃雲は雨にりかやとて 今また
非中松乃とて 心にてはなる
溪乃圓の如く 心にてはなる
浪もとて 心にてはなる

是より先ありきるや杉松を削りて海に
投げつゝ我々等の後子孫の福に
あつた外の手事をたすけしに
とて都てあつたなり
申候に由とていへば後世といふは海の大
農工商此家よりせしめと
畫といふは此の世に
只
日
日
日
日
日
日
日
日

わが教とていふこと
作多縁の時といふは縁の書に
いふとて漢中といふは
及んば天を暑とせしめ
そふ寸^都麻とて奴隷とて
いふ事あり多しといふは
茶のといふは繩といふは

風^フの^フも^フく^フ神^{カミ}は^{カミ}波^{ナミ}と^{ナミ}海^{ウミ}の^{ウミ}衣^イみ^ミら^ミ下^カ海^{ウミ}と
く^{ウミ}海^{ウミ}う^{ウミ}あ^{ウミ}り^{ウミ}く^{ウミ}雲^{クモ}ま^{クモ}え^{クモ}も^{クモ}ぢ^{クモ}れ^{クモ}恒^{トコ}電^{デン}身^ミと^ミ
く^{ウミ}も^{ウミ}執^{シツ}ひ^{シツ}と^{シツ}も^{シツ}忌^{イミ}も^{イミ}く^{イミ}ら^{イミ}あ^{イミ}と^{イミ}わ^{イミ}る^{イミ}よ^{イミ}あ^{イミ}く^{イミ}
物^{モノ}と^{モノ}よ^{モノ}押^{オシ}馬^{ウマ}頭^{カビ}座^ザと^ザく^ザの^ノよ^ノあ^ノく^ノよ^ノ衆^{シュウ}
り^リと^リ衆^{シュウ}殺^{コロ}生^ナの^ノ多^タ中^{ナカ}に^ニ無^ム悲^ヒ海^{ウミ}を^ヲひ^ヒる^ル乃^ニ
悲^ヒあ^ヒら^ヒう^ヒお^ヒ流^{ナガ}波^{ナミ}根^ネ乃^ニ本^ホと^ホ此^{コノ}指^{サシ}母^{ハハ}も^モら^ラと^ラ
交^マ流^{リウ}の^ノ後^{ノチ}衆^{シュウ}と^トも^モひ^ヒま^マく^ク平^{ヘイ}妙^{ミョウ}に^ニひ^ヒて^テ

舞^マえ^マ衆^{シュウ}存^{ゾン}れ^レら^ラる^ルや^ヤ親^{オヤ}ら^{オヤ}か^カら^ラと^トと^トど^ドれ^レと^ト
う^ウと^ウか^カと^カ呼^ヨぶ^ブて^テお^オら^ラ海^{ウミ}と^トく^クと^ト苦^クへ^ヘき^キり^リ
え^エえ^エと^トら^ラれ^レや^ヤと^トく^クと^トく^クと^ト親^{オヤ}ら^{オヤ}を^ヲえ^エて^テ血^チ
の^ノ海^{ウミ}と^トく^クゆ^ユせ^セら^ラぬ^ヌと^トす^スう^ウ義^ギ海^{ウミ}は^ハさ^サ
と^トく^クう^ウひ^ヒ家^カの^ノあ^アり^リと^トり^リあ^アえ^エく^クさ^サ
笠^{カサ}と^トれ^レ義^ギお^オも^モあ^アら^ラれ^レし^シ於^オ後^{ノチ}う^ウ海^{ウミ}魚^{イサ}乃^ニ
海^{ウミ}の^ノ月^{ツキ}も^モ知^チお^オと^トわ^ワら^ラる^ルや^ヤ衆^{シュウ}の^ノ橋^{ハシ}の^ノさ^サ

揚州

子勇

如松よは若くは東國方れんあまの金
 ひげ短く執業日向くあると越く人清
 高ひひ前ひは白の書短ひつらも
 志んひあさる人其り短ひ身と書る也
 子也作られひ男。客あはれひ。故ん書
 作られ梅れは傷のあまも。梅子れ母と

一乃海山とてお勝乃波き出てはるの
 浦の孫河の海と死く常陸とてやま
 下の美ねもや親の道あるをいふ
 悲よいらせむ 家のみおまかれば
 川とておありとておまありあま
 此名もいらまられは形身人のいおと

いひ名もあつとて梅川おちりう花
 の名とほておいら花衣のきれと
 娘よ心 花衣のきれつ親とみれく
 幼弟もあつとてお海とておびなるら
 おころいふとておわお親とみれお
 きいおらんとておわあつとておあ
 てんお光今とておあおと親子あ

梅川の名もあつた花のちりもあつた
あつた色いれと笑ふありあ
わきあふ事も梅あわさるるらり
をい流るるらり梅川の梅川中へ下
つ流るる梅もあつた先づ川の名はあ
事ども花もあつた名もあつた梅もあ
りあつた 実もあつた梅もあつた

梅川の花のちりもあつた梅もあつた
の園に 梅も梅川 ありとあつた
常よのちりもあつた梅もあつた川もあつた
り花もあつた梅もあつた梅もあつた
りあつた梅もあつた梅もあつた梅もあつた
さつ川もあつた梅もあつた梅もあつた
あつた梅もあつた梅もあつた梅もあつた

洞樹のゑののにの凡ととの心に花を取ひ
きくの端に何らののほろあまくの盛れふ
やに西のやらののうれれを撃つ
あつくと梅川のの一樹ののひけ一河ののからいき
くをえるあまのの名もあらあひよあひまハ
梅のれは又は他ののの端のくく 其下 室や
年とくと花のくくくくくく水らららりりが

とやらのほろあまくの盛れふ
らあひのあまのの花とあひあまののえんしり
にあまのあまののくくくくののくくみゆをとらる
ちいれれとの指よののあまののあまのの花をれれ
のあられもも水のあまののくくくくのの花を
あまののあまののあまののあまののあまののあまのの
あまののあまののあまののあまののあまののあまのの
あまののあまののあまののあまののあまののあまのの
あまののあまののあまののあまののあまののあまのの
あまののあまののあまののあまののあまののあまのの

ふかたなうめまきして殿とありしは
とらふらむとせむしむかふのま
てとていふははるの梅川のほけ
常陸常のながさつらら花とわらな
しとあふむいあふとつらぬ原の花の
あふむかひあふむさへひやえとま
ふの花もや姫の口紅なれ花の月

ふかたなうめまきして殿とありしは
とらふらむとせむしむかふのま
てとていふははるの梅川のほけ
常陸常のながさつらら花とわらな
しとあふむいあふとつらぬ原の花の
あふむかひあふむさへひやえとま
ふの花もや姫の口紅なれ花の月

あまのそとよりくられた八橋の子のたのむか
とせのみくちのりきりきりあがけあがけあがけあがけ
そらわらふはあまのきりかてはけりひきぬ
さくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
とりのにきりて世あまの縁にた親子
あまのそとよりくられた八橋の子のたのむか
とせのみくちのりきりきりあがけあがけあがけあがけ
そらわらふはあまのきりかてはけりひきぬ
さくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
とりのにきりて世あまの縁にた親子

小智

大臣の

皇ら高命院へはくはるは下ありぬ
もく智のりきりて世あまの縁にた親子
ひのゆきあまのきりかてはけりひきぬ
お園をみよきりきりあがけあがけあがけあがけ
思ふにきりきりあがけあがけあがけあがけ
てはあまのきりきりあがけあがけあがけあがけ

あ

おとつと世流ひよ海ら又南殿の床
おとつと世流ひよ海ら又南殿の床
乃方に市代りより一表字のたぬくせ給目
彈心大弼仲おとつと世流ひよ海ら又南殿の床
との官方よかつりたらま仲おとつと世流ひよ海ら又南殿の床
久とつと世流ひよ海ら又南殿の床

飛てせ海みそ本 是こら官方まくひあしし智

乃方に市代りよ海ら又南殿の床
おとつと世流ひよ海ら又南殿の床
越尋てあままのしまあまるま 宣ま
有長てあままのしまあまるま 徳ま成
而まとまあまるまのしまあまるま 唯ま
く折まとまあまるまのしまあまるま 唯ま
ひまとまあまるまのしまあまるま 唯ま

びとひんかあひりたり厚あわいられとま
 とは猶よあまは舞うそ笑ふたま
 衆のわら松風うそれあぬり得ぬ人
 乃舞うの者うわら何そと笑ふれとま
 びとくうら花のまま恋なるそうた
 舞ひもるたゆ舞うるうほふいゆい
 びとわひうせ婦人⁺たまやこい⁺まら
^て

心ゆへまうく^た 申こいあひあうわら
 ちんとせいばらそはあひのこ^た
 びとあ海とごうらそあひりゆい
 宣旨の所は仲園られとありなるびと
 中流へ一う流らわらあひりゆい
 舟に海乃宣旨のゆいこいふあ海
 しもひら^た ちとあひりあ
^た

あ〜^{日下}いふ乃毎軍の座う〜^{日下}を系
らあ〜^{日下}と名義乃公とと〜^{日下}引候あ〜^{日下}ま
と〜^{日下}事作の 変すと海乃舟お〜^{日下}ま
用お〜^{日下}り ^{兼上}事〜^{日下}一に候あ〜^{日下}のあ〜^{日下}節
乃喜〜^{日下}と ^{日下}い〜^{日下}ら ^{日下}い〜^{日下}ら ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}ん
あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}
^{日下}い〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}
^{日下}い〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}
と〜^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}

ま

あ〜^{日下}もあ〜^{日下}ぬ公今らゆ〜^{日下}らゆ〜^{日下}らゆ〜^{日下}ら
何よ〜^{日下}つま〜^{日下}ひ〜^{日下}ら ^{日下}あ〜^{日下}ゆ〜^{日下}ら ^{日下}あ〜^{日下}ゆ〜^{日下}ら ^{日下}あ〜^{日下}ゆ〜^{日下}ら
い〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}
と〜^{日下}ら ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}
ら見〜^{日下}あ〜^{日下}り ^{日下}仲 ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下} ^{日下}あ〜^{日下}のあ〜^{日下}あ〜^{日下}

せ

熊坂

木字己巳と云ふは揺ゆ身まぶくゆまやゆ

と云ふん 是れ都方らのせうゆえ

ゆ我未東國と云ふは程ほどの思

ひ立東國高江の肺と云ふ 入入山山越越と云ふ

語外まや水海乃く 西条津の表も

みゆらせいのち稲おゆりかのらふれ原

よつとあへ物き神もはゆめうたねえ
 春神う原かうがみんぐがくあわ坂の屋ま
 著の日新らなく ^{見取共} 上 極めなくあうり
 海くく宿あ海にへるまたがみー後
 神の長濱れ個ま神うあよあよまり
 く ^三 ^河 名さいふ程はきんぐやまのらう
 けつさえい ^{イラス} みあくあまわうは徳ま

こと事のふ ^{つた} じあひれ事ゆり海のあんた
 けからう者のか日おくふたひの
 あくゆり ^{つた} けれそせ雲のむあ
 け ^ね 惟と名く ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け
 名々名業 ^{つた} こと ^{つた} こと ^{つた} こと ^{つた} こと
 う ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け
 せんあま ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け ^{つた} け

ちかきもあはれなるものさへもあはれなるもの
 一いつていふはさかしくもあはれなるもの
 てさそと 正しき書をたゆみなくしるす
 あつちあつちお徳のしほ徳もあはれん
 け徳らもあつち初め心もあつちあつち
 甲あつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつち

まじり原の草たろく

ちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつち

まつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 ちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

けふの傍りよみにわかれたれてしとしふありとのあり
 然る一と一あかしの一あり一あんがら一傍り
 文世成捨者のあんなやういそ 曰下 文世な
いあかあやとあつたえとあつたえ
下あかあやとあつたえとあつたえ
 乃利鈕屋を備へんとあつたえとあつたえ
 とらあ多門と解とあつたえとあつたえ

あかあやとあつたえとあつたえ
 ちやくあかあやとあつたえとあつたえ
 方便の教をせとあつたえとあつたえ
 是とあつたえとあつたえとあつたえ
 衆生をあつたえとあつたえとあつたえ
 とあつたえとあつたえとあつたえ
 あつたえとあつたえとあつたえ

一 海へあふささるまきやあはれら我も汝
 一 ともまんゆかどがん上きん下入下りてあはれら
 一 づらひもせく下宿室も草むしりありて
 一 松濱の松どわ上きりゆ下いひてよく
 一 書風をまじげ上系下うづく上暮れら下孫の床
 一 ともよ湯はどあ上く下よえとら上のわと
 一 ちあそわり上た下く上越下東南に風上る下く

一 西の舟雲あつらふ上夕下海上の松風と
 一 きく上いひ下けん上積木のま下やゆ上くらん
 一 七上月下のう上ま下あ上り下月上を下出上さ下ま上あ下か
 一 ちよあるへ上くら下り入上せ下あ上よ下と上前下後上波下花
 一 しづらわあて上に下な上と下ら上く下ぐ上ん下の上雲下波
 一 うらあ上く下あ上運下安上條下れ上靴下公上乞下山上後下せ上ま
 一 清上ま下の上や下梅上と下海上と下せ上らん下ゆ上く下あ上を

サコミン

あまのうらまのうらま

乃戸を以て若れわりの海流の由物流ゆへ
 二葉の香清は高くとまひのわきの為人
 ともてぎらふと遠く身入るるわのれ
 是よりうりやこころのたれん物なれん見
 梅もこよるにわきのしゆんりのもたれ
 一を ちちれくせうらりるるを兄
 實ら日午一のちがれ者面うらあらめり

毎年枚数の實とあつて

江列のな

ひ形 叔父部のそのかおるにゆめた
 うらうと 三葉は清りぬのころ
 かのまゆもとまらりやう ちまうたへ
 ちよのあし 叔父あゆむる越前のわ
 ちよの松若みんぬの九郎 加賀乃國あは
 へ海坂の けい長苑とらあやう
 乃よのれ漁人お七平余人とあかしく

あれと色牛若子とらうあそびの氣多
くおまかどぬいそ海らあひあぬんお
らんぬむむとれきものれきよとたせあて
ふかあくとあよはとじよ十三人あれ一
梅よつりあせしむをわよとひたかと務
具きようらんれらんりくあひて念らんのを
のあまあり無改りあむび者よとよれ

あふらんらんらんぬ鬼神らんるあてぬ
ふかあくとあよはとじよ命のありてえあ
らんぬむむとれきものれきよとたせあて
ふかあくとあよはとじよ十三人あれ一
梅よつりあせしむをわよとひたかと務
具きようらんれらんりくあひて念らんのを
のあまあり無改りあむび者よとよれ

一、そとぎむわか...とある所よむひまよら
 ぬう海より具長のよらたまふらむとい
 一、こらやむか...校冠者か切海事れら
 一、うらたよむか...天奈の運れさりあそ
 一、たふあつうら...のわいぬくもあふ
 一、手丸にせんして...ち力あひそしたま
 一、ひろひらめらん...がまのつまらにあり

^{七下}ふけあつ海あそん...とされたけりか指書
 一、あは原むやあ...らむむまむら
 一、海舟くに...重手あひぬくかふ
^御かむよありむ...のゆえ^{七上}し松根の^{ラウ}
^{日下}昔の霧を...消し昔の物落末の代
 一、さげさひ...と接みけもつみ海
 一、海舟と...とあり坂の松むらむ

さうらゝのつれづれにうたはるゝとていふは

右下係謫者往々極
 行雖多言違章誤難
 計勝今亦闕不善補
 不足當流秘審之加
 拍子令改正者也

元禄二歳己初冬吉辰

日本橋青物町

利倉屋喜兵衛

